

もっと世界とつながる グッとくる マガジン

GM

GLOBAL MIND

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

[グローバルマインド]

69

Aug. 2024

学校法人 大阪国際学園
広報誌

学長対談

ラジオパーソナリティ・司会・講師

対馬 京子さん

帝国女子高等学校、帝国女子大学(現：大阪国際大学)卒

知識の羅針盤

壁をなくして
よりよい社会へ

学生のBOOKレビュー

人間科学部
心理コミュニケーション学科3年次生

野山 大樹さん

学園HEAD LINE

素顔の先生たち

特集

次代へと 継承していくもの

大阪国際学園は、建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成します。

GLØBAL MIND

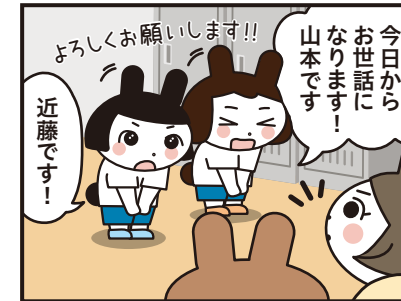
No. 69

2024年8月1日発行／学校法人 大阪国際学園 広報・校友課
〒570-8555 守口市藤田町6-21-57 TEL.06(6902)0787(代) FAX.06(6902)8961 Eメール koho@oiu.jp

<https://www.oiei.jp/gm/>

GM四コマ劇場 vol.12

受け継がれる掟



作者：ナオコ

かつて大阪国際滝井高等学校で国際科の授業を受けもっていたカル先生。授業では英語能力の習得だけでなく、英語で日本文化を紹介する力も身につけていたと、カル先生は自身のアイデンティティそのものから「現在の大阪国際高等学校のIB(国際バカロレア)コースを担当し生徒がIBDP(国際バカロレアディプロマプログラム)の最終試験に合格できるよう日々取り組んでいる。探究型の学習によって主体的に学ぶ姿勢と国際

的な視野を育むIBコースで、先生が担当しているのは「英語A(言語と文学)」。翻訳文学をはじめ広告や映画、テレビ、ブログまで、多彩な英語媒体を対象に分析を行う科目だ。「たとえば英訳された日本文学を原文と比べることで文化的なつながりが浮き彫りになり、自国の文化を再発見することも。広告などのデザインでは、言語以外のビジュアル視点から媒体が真に伝えたい意味をキャッチできる感性を磨きます。また、国内外の社会問題を扱う素材からジェンダーや人権問題への関心を喚起し、生徒のグローバルマインドを養っています。生徒の好奇心を伸ばしつつ、単に英語が話せるだけでなく、英語を使って探究し、表現できる力を育てているのがIBコースの特徴なのだ。

大阪国際滝井高等学校時代を含めると、先生が教えた生徒は数知れず。このたびの統合により滝井高校は2024年2月に「Grand Finale TAKII CAMPUS」を迎えたのだが、「当日は大勢の卒業生が来てくれ、久しぶりに話せてうれしかった」と笑顔の先生。とはいえ、3月末に再び高校を訪れ、閑散とした職員室を見たときは「もうここには帰ってこないんだと思うと寂しさがこみ上げてきました。教師をしていてやりがいを感じるのには、生徒が努力を重ねて難しい目標を達成したとき、彼らのうれしそうな顔を見たり、合格の吉報を受け取ると喜び

もひとしおだそう。ただ、その実少し複雑な気持ちも「先生、「教えるが次のステップに進む」ということは、私の役目はそこで終了。卒業すればもう会うなくなるかもしれない。だからうれしい反面、少し寂しいです。先生が授業で大切にしているのは、肩書を越えて互いに尊重しあい、信頼関係を築くことと情熱をもって生徒と向き合っているからこそ、別れが一層つらくなるのだ。

仕事とプライベートのメリハリを心掛けている先生に、最近ある変化が、「映画を見た後、読書をした」と、自然と分析する癖が身につき「これは授業に使えるのでは?」と思うようになりました。もともとたくさん先生に教えてあげたい!もう職業病かもしれませんね笑。探究心旺盛で生徒想いの先生は、生徒が喜ぶ学ば姿を思い描きながら、今日も授業内容のアップデートに励んでいる。

「Grand Finale TAKII CAMPUS」で卒業生たちと。卒業後も会いにきてくれたり、海外で頑張っている話を聞くのが何よりうれしい。

独白

大阪国際学園
理事長 奥田 吾朗

反面教師

令和4年に開校した学校の取り組みの一つに、立志式(高校生)と発志式(中学生)がある。高校生は、小さいコミュニケーションはもちろん、日本、世界などの広い世界にも目を向けて、自分が将来何をやりたいのか、そのために何を勉強しなければならぬのかを2000字の論文にまとめて、同級生の前で発表する。中学生は、1500字で発表する。

- 本誌に記載の学年、肩書き等はすべて情報収集時のもので、発行時とは異なることがあります。ご了承願います。
- 本誌へのご意見、お問い合わせ等は大阪国際学園広報・校友課までご連絡ください。

各学校の最新ニュースは公式サイトで
ご覧いただけます。

大阪国際学園

検索

この印刷製品は、
環境に配慮した資材と
工場で製造されています。

学校法人 大阪国際学園
大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
大阪国際中学校高等学校
幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園

I 人間教育

豊かな「人間教育」が継承され 生徒たちの未来を明るく照らす

大阪国際中高が掲げる「人間をみがく」という校訓は、魅力ある教育につながっています。ここには滝井高が提唱していた「凛とした美しい人づくり」という姿勢が、確かに受け継がれています。

学園の建学の精神である「全人教育」は社会で必要とされる人間力を養うことを目標としています。学業に加えて人格の形成にも重きを置くこのアプローチは、これからの時代においてますます重要性を増していくでしょう。



生徒一人ひとりが「志」を立てることの大切さを考える 「発志式」「立志式」を中学と高校で開催

立志式とは本来、子どもが数え年で15歳になったことを祝い、大人になるための自覚を深める儀式。この伝統を模して大阪国際中高では、中学2年生と高校2年生に発志式・立志式がそれぞれ行われます。中学の発志式では、生徒は将来の夢や目標を具体的に考え、自らの内面を見つめる時間を持ちます。高校では、これまでの学びや経験を振り返り、具体的な将来のビジョンを描きます。

発志式・立志式は生徒たちが「志」を立てることの大切さを考え自己と向き合い、成長の糧とするための重要なイベントです。ここでも学園における建学の精神に謳われている「全人教育」の思想が、しっかりと継承されています。



特集

次代へと 継承していくもの

新たな一章へと始動する大阪国際学園

2022年、大阪国際滝井高等学校（以下、滝井高）と大阪国際大和田中学校高等学校（以下、大和田中高）の統合により、大阪国際中学校高等学校（以下、大阪国際中高）が誕生しました。1929年に帝国高等女学校として設立された滝井高は学園の歴史そのものであり、培ってきた伝統は今も息づいています。新しい時代へと一歩を踏み出す大阪国際学園が、守りたいものは何か。「継承」をテーマに特集します。

ハーバード大学のアカペラグループ

“Din & Tonics”が来校！

素敵なハーモニーを披露いただきました

2024年7月8日、ワールドツアー中の“Din & Tonics”を迎えての国際交流イベントが開催されました。アンバサダーチームが主体となつての学校案内や交流会など、すべて英語でのやりとりに生徒たちは奮闘！ジャズやフォークポップスといった軽快な音楽に魅了されるとともに、『花は咲く』は会場全員で合唱する一幕があるなど、歌を通して貴重な交流を持つことができました。



私たちの歌声で笑顔になってもらえてとてもうれしかったです。勉強も大切ですが、学生時代は友達と何かを作りあげる楽しさをぜひ経験してほしいと思います。



Din & Tonics MC担当
リー・セリグマンさん

アンバサダーチームリーダー

学校案内を担当し、英語表現をみがきました。おかげで授業でも英語が出てくるほどに！交流会では積極的な学びの姿勢にふれ、大きな刺激を受けました。
大阪国際高等学校3年生
杉浦 真悠子さん



約一カ月前から準備を重ね、盛況に終わって大満足！まさにimpressedな体験でした。ハーバード大学の学生と話せる機会を持てたのがよかったです。
大阪国際高等学校3年生
末野 あかりさん



表紙の生徒たち

大阪国際中学校3年生
中学女子バレーボール部
渡邊 梨央さん

私たちの強みは一人ひとりがやるべきポイントをおさえ、チーム全体で考えてプレーができているところ。みんなでつないだボールが点となり、それが積み重なって勝ちにつながるのが楽しいです。成長を感じるの、自分の思った攻撃が意図的にできたとき。つまずいても強く優しい先輩やチームメイトからアドバイスをもらって頑張っています。目標は中学女子バレーボール部のみんなで日本一を取ること！将来はプロに入って、日本代表選手になりたいです。



二人は中学生日本代表として、イタリアで開催された世界大会で優勝！

大阪国際高等学校1年生
高校女子バレーボール部
姫子松 奏音さん

目的をもって“量より質”の練習をすることが、私たちの強さの秘訣。誰か一人が頑張るのではなく、みんなで意見をぶつけあい、自律心をもってプレーすることを心掛けています。試合中の苦しい場面でも、アイコンタクトや声かけでみんなの心が一つになり、ボールがつながっていくのがバレーボールの醍醐味。中学時代に比べて試合のレベルが上がったので、瞬時に判断して攻撃できる技をさらにみがいて、夏のインターハイをみんなで勝ち進みたいです！





小笠原流礼法

他者を思う心を育み、表現する 「小笠原流礼法」を正課の授業に

小笠原流礼法は室町時代に生まれた武家礼法で「他者を思う心」を基盤とし、心を形に表す美しい所作を重んじています。滝井高が授業として小笠原流礼法を取り入れたのは2008年。最初は一部の生徒のみが履修していましたが「礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成する」という学園の理念に沿うものとして、2012年より全科・コースで教科「礼法」が実施されるようになりました。現在、この伝統は大阪国際高にも引き継がれ、小笠原流礼法宗家本部より招いた師範の先生が講義と実習を担当しています。

実際に礼法の授業を受けた生徒たちの変化は一目瞭然で、立ち居振る舞いはもちろん、挨拶や言葉遣いなどが明らかに洗練されていきます。「この礼法を学ぶことで、今まで何気なく行っていた自分の動作が相手にどう映るかを意識できた」という声も聞かれます。

所定のカリキュラムを終えた生徒には許状が授与され、卒業後の就職面接でも履歴書に書かれたこの資格が企業から注目されるのだとか。将来にわたって役立つ人間教育の一環として、この授業は今後も続いていきます。



INTERVIEW

滝井高は今年、95年におよぶ長い歴史に幕を下ろしました。在職中は当たり前のように聞いていた校歌が今後、歌い継がれなくなることを何より寂しく思います。「千代も揺がぬ学びや」である滝井高は、大阪国際中高として新たな歴史を刻

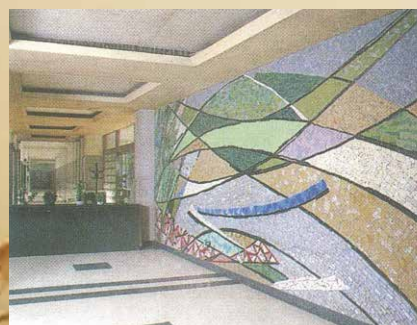
深い花となりました。

滝井高の校歌には「撫子の花」が登場しますが、それは帝国高等女学校時代から学校の象徴として位置づけられ、以前は校章や校旗にも使われていました。滝井高の最後の校長であった松下寛伸先生は、「咲くもめでたし…、色も懐し…、姿もやさし…」と形容される撫子の花は、入学時、在学時、卒業時の生徒を表している「とおっしゃっていました、私自身、生徒たちとの思い出のつまったたいへん感慨深い花となりました。

1987年に当時の帝国女子高等学校に入職し、以来滝井の地で37年間勤務しました。私が大切にしてきたのは、建学の精神である「全人教育」をもとに、生徒たちの他者を大切に思う心を養うことです。特に「おはようございます」、「ありがとうございます」といった挨拶はコミュニケーションの基本ですので、大切にしよう指導していました。

礼節を重んじる、凛として美しい人づくり
その精神は変わらずに受け継がれる

み始めました。滝井高から始まった小笠原流礼法の授業は国際高校へも引き継がれ、感謝と思いのやり取りの気持ちをもって自ら考え、行動できる生徒をこれからも育んでまいります。凛とした美しい心をもった生徒たちが学ぶ姿を、引き続き見守っていただければと思います。



モザイク画家・渡辺修氏により、校歌をイメージして制作されたモザイク壁画。歌詞にある金剛山・淀川・撫子の花が表現されています。

大阪国際中学校高等学校
西口勝美 教諭



Ⅱ

滝井 イズム



大和田中高との統合により、学校としての歴史に幕を閉じた滝井高。しかし、そのスピリットは今も色濃く存在感を放っています。地域貢献活動、高大連携授業、小笠原流礼法という、滝井高を象徴する活動を通じて、滝井イズムがどのように次代へと引き継がれているのかをご紹介します。

地域貢献活動

ボランティアや地域貢献活動による キャリア教育を推進

滝井高ではキャリア教育の一環として、ボランティア活動を積極的に推進していました。献血活動の呼びかけや近隣の清掃活動に学校全体で取り組むほか、看護進学コースの生徒の中にはベトナムでの医療ボランティアに参加し、現地の病院での補助や患者さんのお世話を体験、仕事の厳しさを知ると同時に医療現場で働く喜びとやりがいを味わう生徒もいました。

また、幼児保育進学コースでは、近隣の幼稚園・保育園の園児を招いて「ふれあいまつり」を開催。この行事は、保育の専門家になるための自覚を深める良い機会となっています。「全人教育」という学園の建学の精神がこの活動に込められています。

高大連携授業

20年以上前から実施されていた 大阪国際大学・短大との「高大連携授業」

滝井高では2004年より高大連携授業がスタートしました。当初は、多くの生徒が進学する大阪国際大学・短大での「学び」を先取りし、より理解を深めることを目的としていましたが、令和の時代になると探究型学習やアクティブラーニングが積極的に導入され、近隣地域の課題を取り上げた問題解決型の学習やフィールドワークも行われるようになりました。

現在、この取り組みは大阪国際高にも引き継がれており、生徒たちは高大連携授業を通して「なぜ大学で学ぶのか」「何を学ぶのか」に真摯に向き合うことで、自分の関心や興味を発見したり、自ら考える力を養っています。





当事者とふれあうと 障がいへの向き合い方が変わる



令和6年に「障害者差別解消法」が改正され、事業者による障がいのある人への合理的配慮の提供が義務化されました。障がいのあるなしにかかわらず、互いに「その人らしさ」を認めあって生きるためにはどういったことが必要なのか。パラスポーツの指導現場におられる谷川先生に、両者の理想的な関わりあいについてお聞きしました。

壁をなくしてよりよい社会へ

障がいを特別視せず 等しく接することが大切

スポーツ行動学科で水泳とパラスポーツについて教えています。この学科では中級パラスポーツ指導員の資格取得をめざす学生が多いことから、障がい者本人や彼らに関わる方々をお招きして講演いただく機会を設け、障がいを抱えながらスポーツに取り組むことの難しさや葛藤、義手や義足の仕組みや使い心地を教わり、障がいに対する深い理解につなげていきます。

はじめはスポーツそのものに関心を持っていた学生も、実際に当事者から話を聞いたりふれあったりすることで、障がいへの向き合い方が変わっていきます。

また、本学は京都市障害者スポーツセンターと協定を結び、充実した実習を受けられる環境も整備。「障害者差別解消法」の改正により社会の風向きも変わりつつある今、障がい者にやさしい世界を推進するため、理解ある指導者を輩出していきたいと考えています。

記録を伸ばす目標は同じ

区別なくスポーツを楽しむ

勝負してたでしょ？」という声がかかったそうです。障がいに対して壁があると、遠慮してチョキやグーを出してしまうことがあるかと思いますが。しかし、障がい者に関わっている人ほど「パーを出すかもしれない」「ですから『障がい者だから負けてあげよう』というのではなく、健常者と同じように接して気にせず勝つたらいんですよ」と。ここから、等しく接することが求められているのだと感じます。



両足を揃えて履くモノフィンとシュノーケルを使って泳ぐフィンスイミング。大学院生時代に始めた先生は、世界大会の出場経験も。

とがあるそうです。メディアは障がいをクローズアップして、それを乗り越えたドラマを演出したがる。しかし、「一般的なアスリートと同じ扱いをしてほしい」というパラアスリートは多いです。自身の強みをどう活かす、記録につなげるかは障がいの有無にかかわらずアスリートに共通する目標です。2024年にはパラリンピックも開催されます。オリンピックと同じく、純粋にアスリートのすばらしさを味わう気持ちで楽しんでもいいと思います。



大阪国際大学
人間科学部スポーツ行動学科
谷川 哲朗 准教授

Ⅲ

国際感覚の 涵養



ケンブリッジ研修

英語を「話す」機会はもちろん、 異文化を「体験し、理解する」場を数多く提供

大阪国際中高では、海外からの留学生の長期受け入れや、姉妹校から留学生が来校し交流するイベントやオンライン交流会など、英語を使って学ぶイベントが盛んです。また海外でのボランティア研修や、学生寮に宿泊して現地の学生とともに大学の講義を受けるケンブリッジ研修、LGBTQなど多様性について学ぶUCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)研修など、国際的な視野を育む機会も豊富に提供。さらに、大阪府が実施する「グローバル体験プログラム」や、文部科学省による留学促進キャンペーン「トビタテ!留学JAPAN」といった学外のプログラムに参加する生徒に対しては適宜、書類や面接審査へのサポートなどを行い、チャレンジを力強く後押ししています。



留学生の受け入れ



ベトナムボランティア研修

学園の名が示す通り、グローバルな人材育成も継承における大きなテーマ。語学研修や留学をはじめとした多彩な体験を通して国際感覚をみがくチャンスが学生に開かれています。

Ⅳ

部活動の 推進

「全人教育」を掲げる学園では、部活動にも全力で取り組める環境を整備しており、その伝統は滝井高から大阪国際中高に確かに引き継がれています。例えば、高校が準強化クラブに指定された吹奏楽部は、滝井高でも指導いただいていた元関西フィルハーモニー管弦楽団ホルン奏者の朝倉洋大阪国際学園芸術文化教育センター長(大阪国際大学短期大学部名誉教授)を音楽監督にお迎えして活発に活動中です。



礼法に通じる「挨拶」「礼儀」「マナー」を大切に 中高生が主体性を持って活動

活動スケジュールも演奏会での曲目も、すべて生徒自身で決めるのが大阪国際中高における吹奏楽部の基本スタイル。「楽譜係」や「録音係」のほか、「美化係」や「日誌係」など一人ひとりに役割があり、自立心や協調性、互いへの感謝の気持ちを大切に日々、活動しています。今年は高校1年生が18名入部し、全日本吹奏楽コンクールでは大編成の部に出場予定。どんな難関も自分たちで立てた目標に向けて切磋琢磨しながら、すべてを成長につなげていきます。滝井高と大和田中高の合同コンサートであった「Blossom Concert」は、大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部吹奏楽部と大阪国際中高吹奏楽部の合同コンサートに形を変えて継承。2024年6月8日に記念すべき20回目を迎えました。新生した学校でも、これまでと同様に透明感のある美しいハーモニーを強みとしている吹奏楽部。今後の活躍にご期待ください!



第9回全日本ブラスシンフォニーコンクール本選大会 最優秀賞
第23回日本管楽合奏コンテスト全国大会高校生A部門 優秀賞
第72回全日本吹奏楽コンクール小編成の部大阪府大会 銀賞
第73回全日本吹奏楽コンクール小編成の部関西大会 金賞

今回の対談相手である對馬京子さんは、高校、大学とも大阪国際学園出身です。大学の在学中にアナウンススクールへ通い、卒業後はラジオパーソナリティの道へ。「話す」ことを長く仕事にしてきた對馬さん流コミュニケーションのコツや、滝井高校の思い出などを語っていただきました。

滝井高校の伝統は今後も
大阪国際学園の教育において継承されるでしょう

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
学長 宮本 郁夫



礼に始まり、礼に終わる。
この教えが私にとって人生の基盤となっています



ラジオパーソナリティ・司会・講師

對馬 京子さん

プロフィール (つしま きょうこ)
帝国女子高等学校(大阪国際滝井高等学校)、帝国女子大学(現:大阪国際大学)を卒業。大学在学中に京都アナウンススクールへ通い、イベント司会、ラジオDJ、リポーターなどを経験し、卒業後はKBS京都ラジオ、ラジオ大阪、FM大阪、FM滋賀、ラジオ関西でレギュラー番組を担当。現在は専門学校やタレント養成所で講師も務めている。



ラジオパーソナリティ
の夢は中学時代から。

宮本 對馬さんはラジオパーソナリティやリポーターとしてご活躍されているそうですね。

對馬 中学生の頃からあこがれていた仕事で、滝井高校卒業後すぐこの世界へ飛び込むつもりでした。でも先生に「ラジオパーソナリティは言葉だけで勝負する世界。もった色々な経験をして人間性をみがかないと、人の心は動かせないよ」と言われて。それで帝国女子大学に進学しました。

宮本 それは良い判断でしたね。
對馬 今思うと本当にそうです。大学の4年間で得た知識は後々の仕事に役立っていますし、私がラジオパーソナリティをめざしていると知った先生方が、学校の行事があ

るたびに司会を任せてくださったりして。この仕事は経験が何よりもスキルになるので、大学に行ったらこそ夢を叶えられたのかもしれない。
宮本 今は後進の指導もされているそうですね。若者世代と接していることはありますか？

對馬 やはりSNSやスマートフォンの影響は大きいですね。この仕事は「言葉で表現すること」が増えている。「おいしいパフェを食べたんです」と言うから「どんなパフェ?」と聞いたら、写真をパッと見せてくれて終わり。
宮本 Instagramとかね。

對馬 どんなお店でどんな人たちがいて、どんな器に入って、どんな味や食感がして...そこからコミュニケーションが生まれるんだと伝えたいですね。

コミュニケーション
で大事なのは「聞く力」。

宮本 話術のプロである對馬さんご自身がコミュニケーションにあたって心がけていることは？

對馬 もともとラジオばかり聞いている中学生だったので、コミュニケーション能力は決して高い方ではないんですよ。ただ、仕事をする中でわかってきたのは、コミュニケーションで大事なのは「発信力」ではなく「聞く力」だということです。
宮本 コミュニケーションに苦手意識がある人は「喋らない」と焦ってしまうんですね。

對馬 まさにそう!DJってずっとお喋りしているようですが実はそうではないんです。例えば、話の要素を所で「空白の時間」を作ることで、聞き手が内容を理解しやすくなります。また、相手の話を引き出す際にも、会話の「間」が重要なんです。コミュニケーションは「いかに話すか」じゃなくて「いかに話さないか」です。

宮本 私も学生さんと話す際には聞き役に徹するよう心がけます。みんな最初は緊張して言葉がなかなか出ないのですが「自分は喋っているんだ」とわかると、どんどん会話がスムーズになります。

對馬 コミュニケーションのコツは、究極を言えば「相手への思いやり」なんです。宮本学長の気持ちや伝わったから、学生さんの心もほぐれ、話しやすくなるんじゃないでしょうか。

相手を思いやる心を
学んだ高校時代。

宮本 大事なことは、相手への思いやり。滝井高校の教えである「凛とした美しい心」にも通じますね。2022年に滝井高校は大阪国際大和田中学高校と統合しましたが、卒業生としてどんな思い出がありますか？

對馬 とにかく厳しい学校でした。入学初日に「礼に始まり礼に終わるの」と人とのつながりです」と言われて、高校時代は挨拶を徹底的に鍛えられました。

宮本 その厳しさは、後に社会で生きてきましたか？

對馬 はい。ラジオパーソナリティは仕事を一つひとつ、オーディションで取っていくなくてはなりません。ある番組のオーディションで、最終5名まで残った時のことです。実際にスタジオでラジオ番組をやるという審査だったのですが、他の4名が本当に上手で、今回もダメだったと落ち込んでいたところ、合格できたのです。ディレクターの方が電話口でおっしゃるには「あなただけスタジオに入る時と出る時、ちゃんと礼をしていました。ラジオの向こうに相手がいることをわかっていると感じました。そういう



大学・短大・中高

京阪百貨店 SDGs食育フェスタに協力

5月26日京阪百貨店と企業、大学、生産者、自治体が一
体となって、「楽しみながら食を育もう!」をキーワードにク
イズやワークショップ、大阪もん農産物や加工食品の試
食・販売などを行う「SDGs 食育フェスタ」に短大栄養学
科が昨年度に引き続き参画しました。「楽しく学ぼう!」をコ
ンセプトに、『豆つかみゲーム』『1日に必要な野菜摂取量
350gを量ろう』を企画して食育実践活動を行いました。ま
たステージでは、守口ライブパフォーマンスとして大学・短
期大学部ダンス部 Absorb(アブソープ)チアダンス部
Jewelries(ジュエリーズ)大阪国際中学校高等学校 吹
奏楽部が登場し、会場を盛り上げました。



大阪国際大学短期大学部 栄養学科



Jewelries(ジュエリーズ)



ダンス部 Absorb(アブソープ)



大阪国際中学校高等学校 吹奏楽部

短大・国際高

幼児保育学科(短大)×幼児保育進学コース(高校)の学生&生徒が イオンモール大日と連携した子育て支援活動「わくわくランド」を開催

6月16日イオンモール大日にて大阪国際高校の幼児保
育進学コース生と短期大学部の幼児保育学科生で初
めて合同での「わくわくランド」を開催しました。イオンモ
ール大日との連携は、今回が4回目となります。多くの方
々にご来場いただき大盛況でした。2024年度は年間6回
の「わくわくランド」の開催を予定しています。



学園・大学・短大

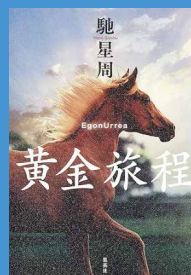
『「セロ弾きのゴーシュ」朗読劇と講演』をもりぐち歴史館で開催

3月22日大阪国際学園芸術文化教育センター主催による『朗読劇「セロ弾きのゴーシュ」、講演』を「もりぐち歴史館(旧
中西家住宅)」で開催しました。同センター長 朝倉洋大阪国際大学短期大学部名誉教授の司会の元、第1部では演劇
サークルの学生が、チェロ演奏とともに見事に宮沢賢治の世界を演じました。第2部では宮沢賢治研究家として知られ
る松田司郎大阪国際大学名誉教授により、『宮沢賢治と音楽「セロ弾きのゴーシュ」を通して』と題した講演が行われ、
さらに深くセロ弾きのゴーシュの意味について学ぶことができた一日となりました。



学生のBOOKレビュー

『黄金旅程 Egon Urrea』



馳 星周 著
集英社 2021年

この本は馳星周氏によって書かれた本であり、直木賞受賞後の
第一作である。この本の競走馬にはモデルが実存し、モデルの名前
はステイゴールドという。ステイゴールドは50戦を走りぬけ、引退
レースで日本産・日本調教馬初の海外G1制覇を達成した。競走
馬擬人化コンテンツ「ウマ娘」にも登場し、名前とテキストのみでも
ネット上で反響を呼んだ。そんなステイゴールドをモデルにして書
かれた本書は、腕のいい装蹄師の平野敬と落ちぶれた元トップ
ジョッキー和泉亮介が、史上最強の二勝馬「エゴンウレア」を勝たせ
るために様々な思惑や葛藤を乗り越えていく物語になっている。
ところで皆さんは、「シルバークレクター」という言葉を知ってい
るだろうか。スポーツやレース、試験などで、万年二位で成績は悪く
ないが、なかなかトップをとれず、いつも銀メダル・銀賞をもらって
いる人やチームのことを言う。オリンピックなどでは金メダル以外に
も銀メダルや銅メダルなど、一位以外も注目を集めるが、競馬にお
いては一着だけが唯一の勝利とされている。シルバークレクターは
善戦をしているものの、勝鞍が中々得られない競走馬を指す。エゴ
ンウレアもこのような扱いのため、彼も歴としたシルバークレク
ターとして本書では描かれている。あと少しの勝利がつかめない姿
は、夢を見る人々の代理人のような存在でもある。
それにしても、何故ここまで競馬は勝利にこだわるのか。それにつ
いて疑問に思うことだらう。本書でも描写されるが、基本的には牡
馬は引退すると多くの競走馬の父になるべく種牡馬入りをする。
この時に血統が良くても勝鞍がないと価値が下がってしまう。しか
し種牡馬になると生活が保障されるため、そういった観点からも勝
利にはこだわりたいのだ。更に主人公の平野敬は、種牡馬以外の用
途になった馬についても責任を持つ必要があると言っている。乗馬
や神馬、流鏝馬などあるがその末路は必ず良い結果を迎えるとは
限らない。本書ではそういった馬産の結末などにも触れられてい
る。もし本書を手にとったならば、エゴンウレアの結末や馬産が
抱えるジレンマについても、ぜひ考えてみて欲しい。

人間科学部心理「ミユケーション」学科3年次生 野山 大樹

国際高

インターハイ出場!

女子バレーボール部

大阪府高校総体バレー2024(インターハイ予選)にて、2位の成績を取
り、7月25日開催全国高等学校総合体育大会(大分県)への出場が決
定しました。昨年の雪辱(16位)を果たすべく、ベスト4以上を目指し、練
習に励んでいます。



男子硬式テニス部

個人戦の部にて西山蒼司さん(2年生)木崎琉士さん(2年生)が出場決
定し、また団体戦の部においてもインターハイ出場権を獲得しました。8月2
~4日(団体戦)8月5~8日(個人戦)に、大分県にて開催される全国大会
に向けて、勝ち上がることでできるように、しっかりと練習に励みます。



大学

陸上競技部が全国大会において躍進!

5月22~25日開催第101回関西学生陸上競技対校選手権大会において、塩地莉夏さん(ス
ポーツ行動学科1年次)が女子100m自己新(11秒82)で2位入賞。また男子2部800m/1500
mで2冠達成を果たしたのが飛田駿星さん(同学科2年次)。飛田さんは、2月18日開催第4回全
国招待大学対校男女混合駅伝競走大会関西学連選抜チームの1区としても出場し活躍。また
6月27~30日開催の第40回U20陸上競技選手権大会には、男子走高跳にて、新山創大さん(同
学科1年次)と女子100mに、塩地さんが出場。新山さんは2m05のシーズンベストで6位入賞。



大学

「小学生向け出前授業・サイバー防犯ボランティア」 大阪府警察本部より感謝状

2月13日大阪府警察本部サイバーセキュリティ対策課よりサイバー防犯チームの代表者である
的場舞鈴さん・小原花乃子さん(2023年度国際観光学科卒業)に感謝状が贈呈されました。
また同日開催されたサイバーセキュリティコンテストにおいても、サイバー犯罪の情勢や被害、そ
の対策についての問題に挑戦し、的場さん・小原さんがみごと優勝しました。



こども園

地震避難訓練を実施

6月6日避難訓練を子どもたちにも先生たちにも事前に知らせず、抜
き打ちで実施しました。様々な場所で過ごしていた子どもたちが、先
生たちの話をしっかりと聞いて《だんごむしポーズ》をとり素早く行動
することができました。いざという時に迅速に慌てず焦ることのない
ように、命を守る訓練に取り組みます。

